

医療安全フォーラム

テーマ：医療安全を可視化する

医療安全をワークアウトを用いて推進
～Risk Mapで評価する～

信州大学医学部附属病院 放射線部

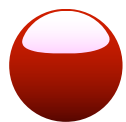
谷口 正洋

本講演における利益相反

☒ ありません

Goal

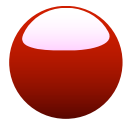
- ・インシデント事例をもとに
- ・分析ツールを用いた業務改善
- ・改善結果をRisk Mapで評価



インシデント事例

MRI検査室への
金属持ち込み事例
に着目





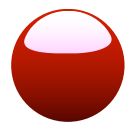
分析ツール: ワークアウト

- ワークアウトとは、グループワークで、2～3日程度で、問題とその改善策を見出すもの。
- 管理者目線ではなく、実務担当者自身が権限をもって、実務者レベルの目線で、より効果的なやり方を抽出する。
- スピード感があり、シンプルで、実務担当者の自信につながる。
- 職務を見直したり、気づきがあったり、個々の成長が期待される。

5つの役割

1. ファシリテーター（進行役）
2. スクライバー（書記役）
3. タイムキーパー（時間係）
4. プレゼンター（発表者）
5. 報告書作成（作成者）





原因分析ツール: ワークアウトの流れ

事例に対して

問題抽出

分類・優先順位

改善策の策定

グループ討論1

グループ討論2

1R: 抽出

2R: 分類

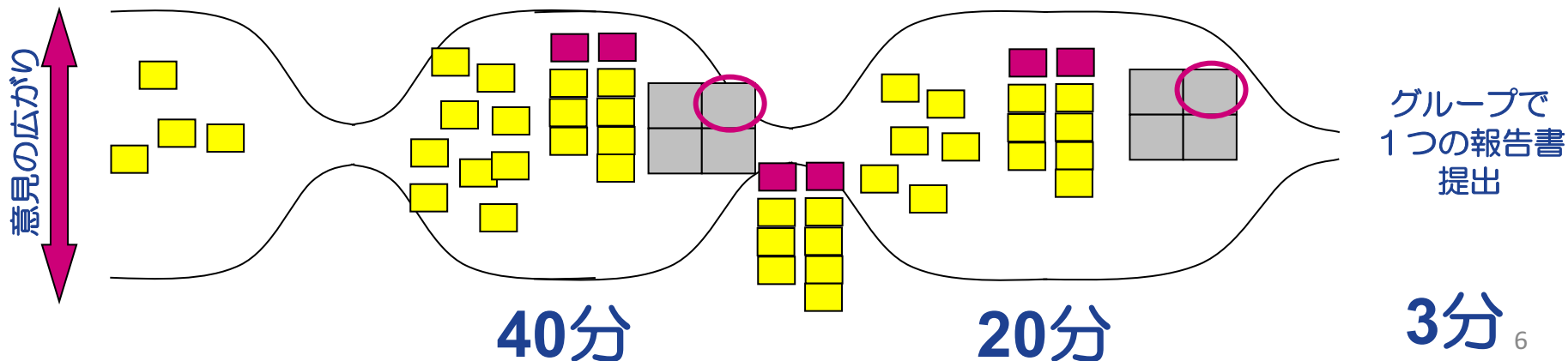
3,4R: 策定

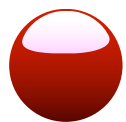
発表・報告

問題点の洗い出し

取組の絞込み

改善策 策定





危険分析(カテゴリーの優先付け)

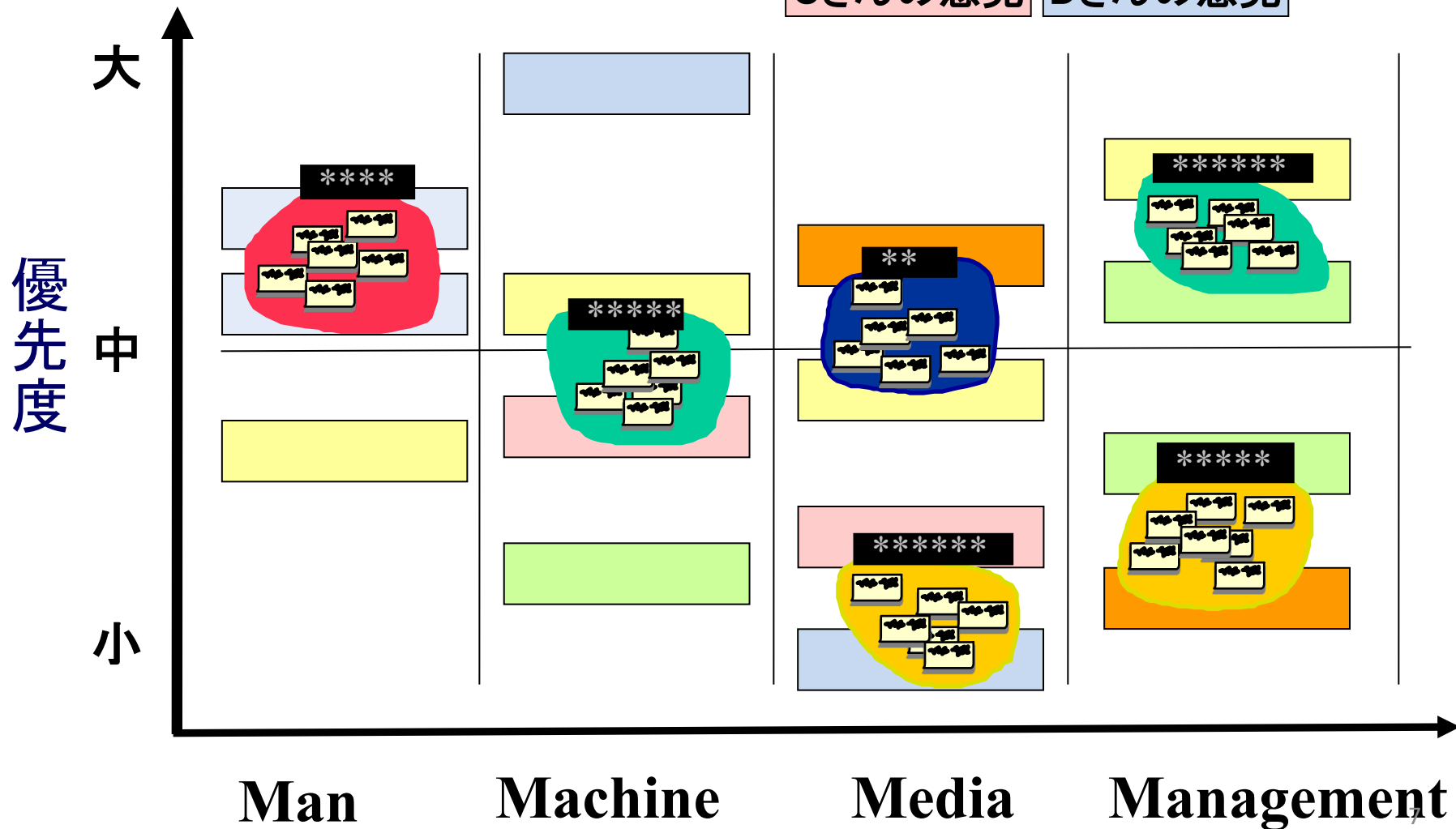
優先順位を付けて考える

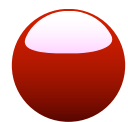
Aさんの意見

Bさんの意見

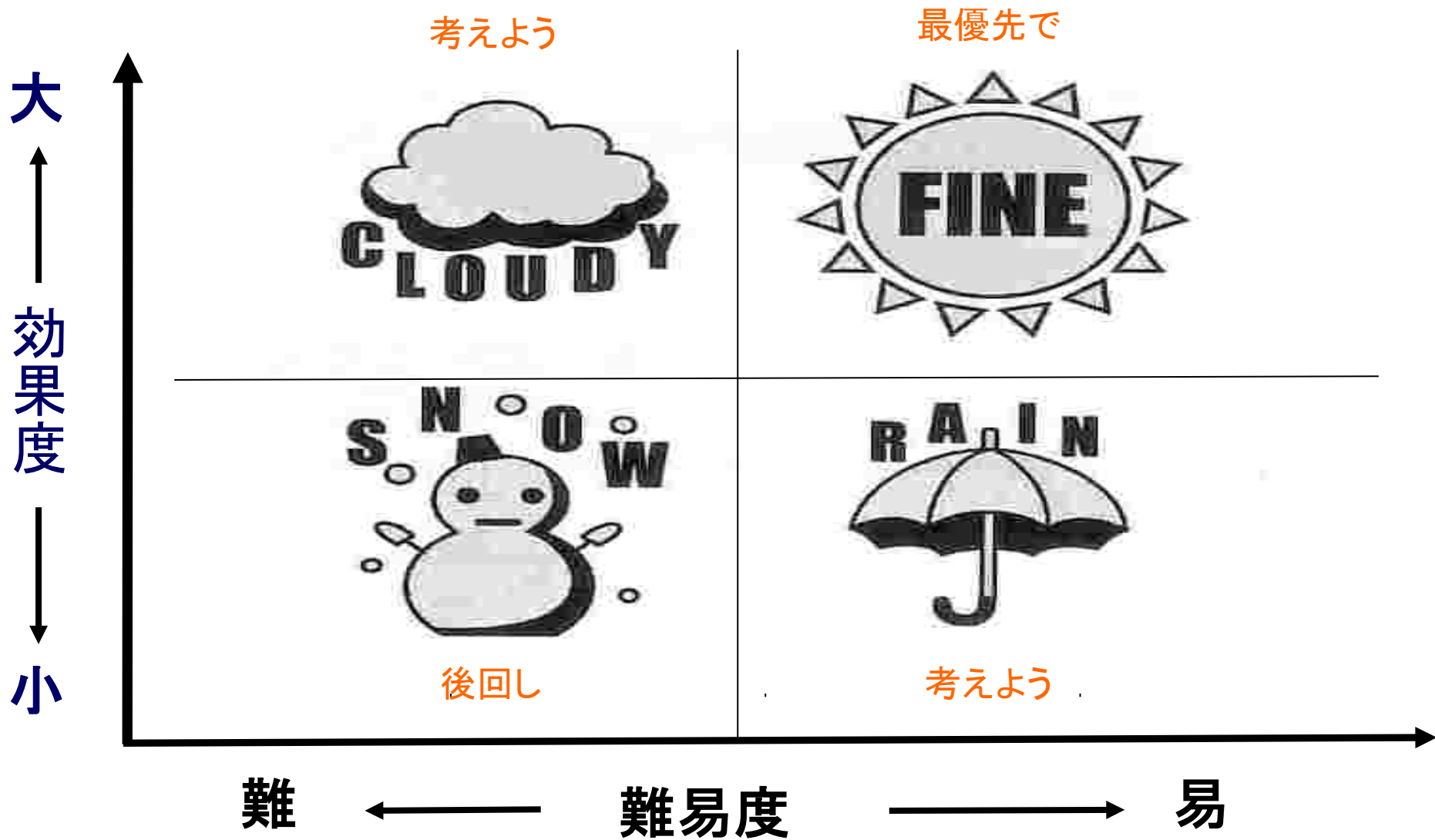
Cさんの意見

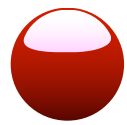
Dさんの意見





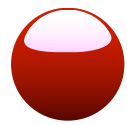
絞り込み（改善策を分類し絞り込む）



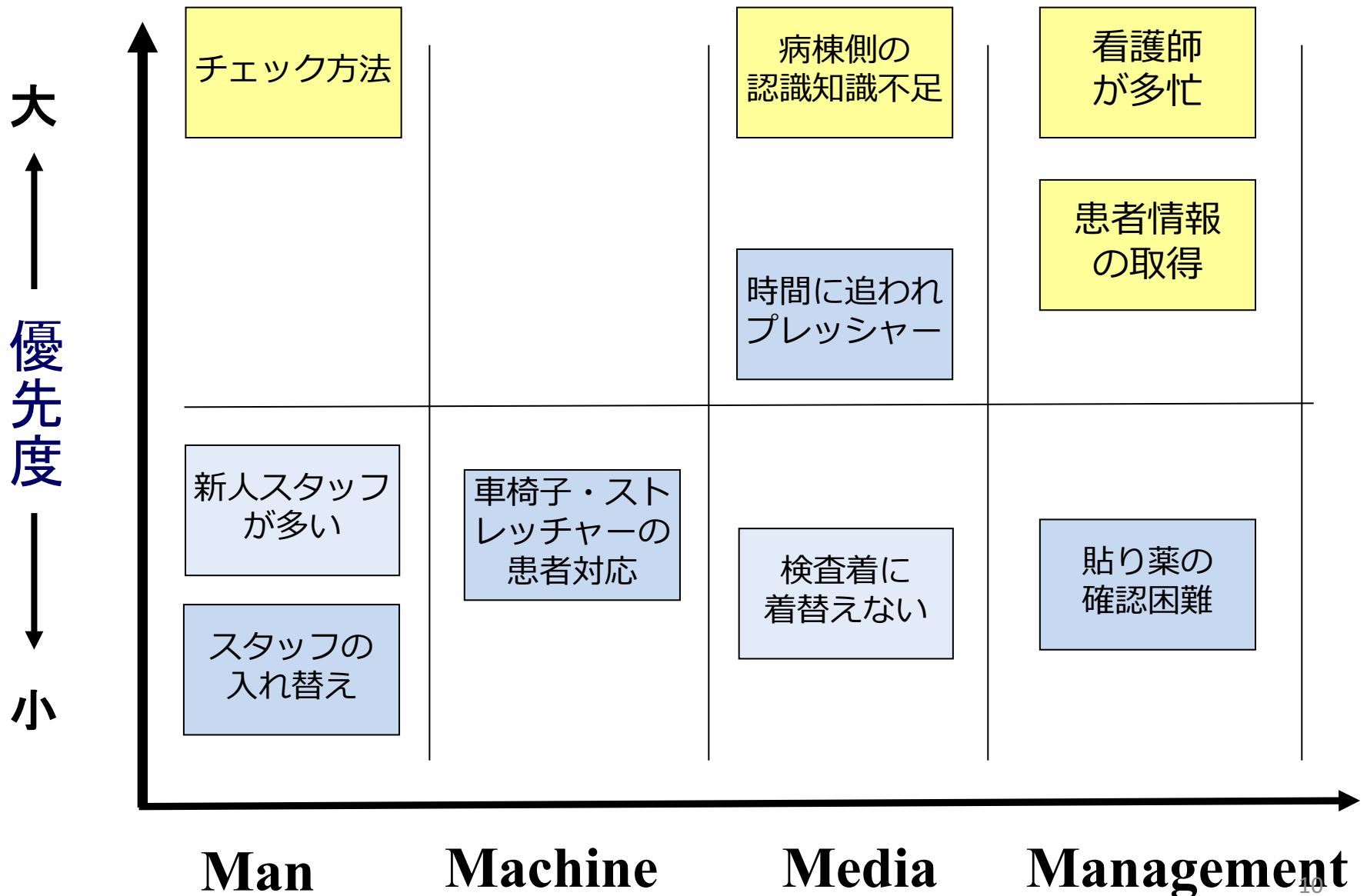


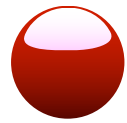
MRI検査室内 金属持ち込み事例

- ✓ 脳動脈クリップがMRI非対応
- ✓ 看護師のポケットのコッヘルが吸着
- ✓ 患者が腕時計を着けたまま入室
- ✓ 入院患者が輸液ポンプを付けたままMRI検査室へ
- ✓ 眼球内に金属性異物
- ✓ 患者のポケットに鍵
- ✓ 心臓にMRI非対応ステント留置のまま検査施行
- ✓ 約20年前の脳動脈クリップ留置
- ✓ 1.5T対応のステント留置患者を3T装置で検査実施
- ✓ 体温計が紛れたまま検査施行
- ✓ 導眠用シリンジに注射針を付けたまま入室
- ✓ 手術中に破損したドリルが残ったままの患者を検査施行
- ✓ ドレーンチューブについたコッヘルを持ち込みかけた
- ✓ 保温カイロを付けたまま撮像



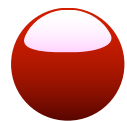
問題点の抽出 (MRI検査室への金属持ち込み)



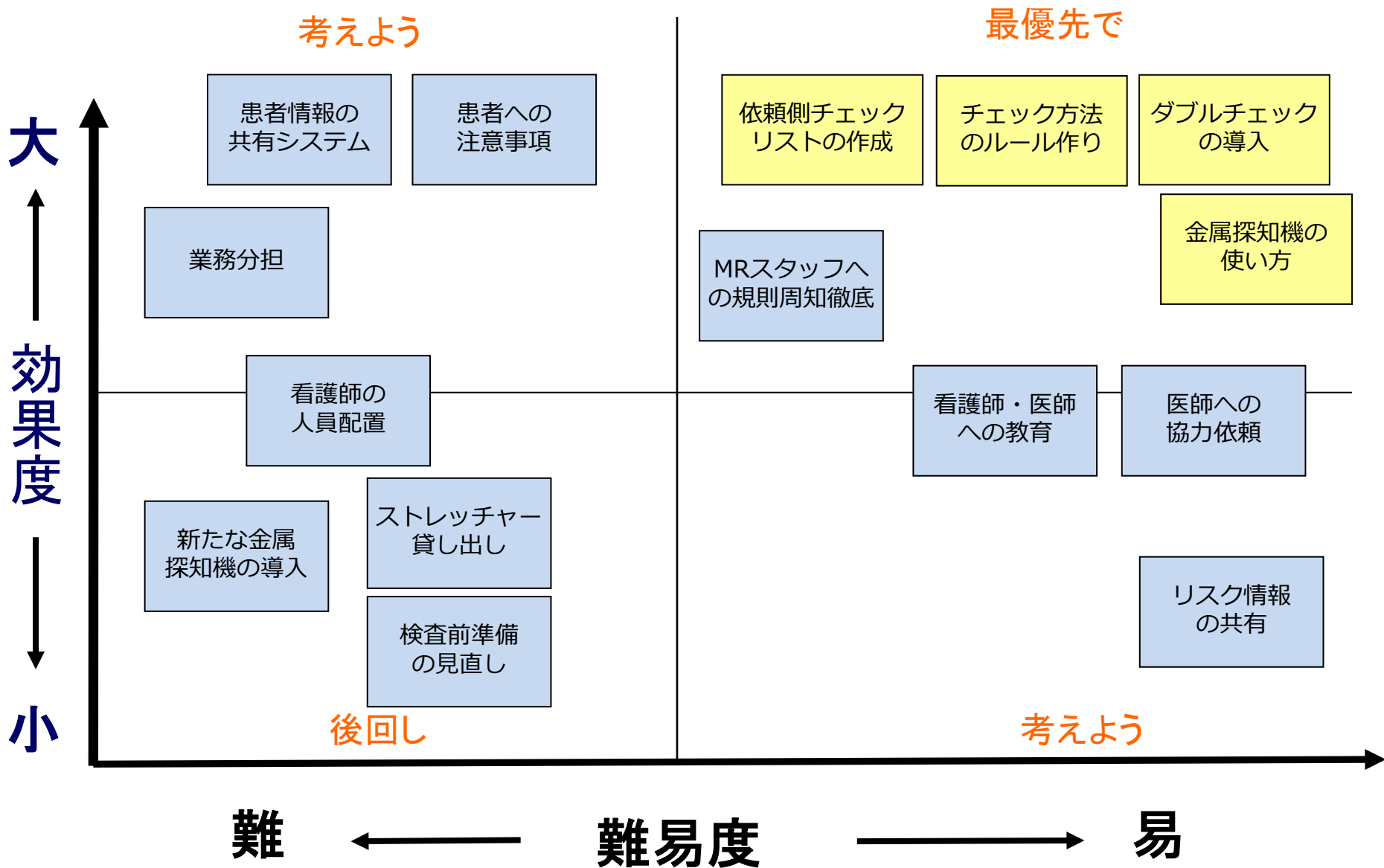


問題点の抽出

- ✓ M R 担当看護師が多忙
- ✓ 救急・病棟スタッフの認識・知識不足
- ✓ 患者情報の取得方法
- ✓ チェック方法を改善



改善策を抽出 (MRI検査室への金属持ち込み)

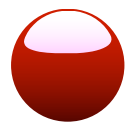


改善策の検討

- ✓ 金属探知機の使い方
- ✓ ダブルチェックの導入
- ✓ M R入室時のユニフォームを統一
- ✓ 病棟にイラスト入り金属チェック表を配布し、
検査出棟時に確認
- ✓ 検査申し込み時に、イラスト入り金属チェック
表を患者に配布する
- ✓ A D Lに合わせたチェック方法を確立する
- ✓ チェック方法のルール作り

改善策を分類

- ✓ M R 担当看護師が多忙
 - ダブルチェックの導入
 - M R 入室時のユニフォームを統一
- ✓ 救急・病棟スタッフの認識・知識不足
 - 病棟にイラスト入り金属チェック表を配布し、
検査出棟時に確認する
- ✓ 患者情報の取得方法
 - ダブルチェックの導入
 - チェック方法のルール作り
- ✓ チェック方法を改善
 - 金属探知機の使い方
 - A D L に合わせたチェック方法を確立する



Risk Mapを用いた評価

1

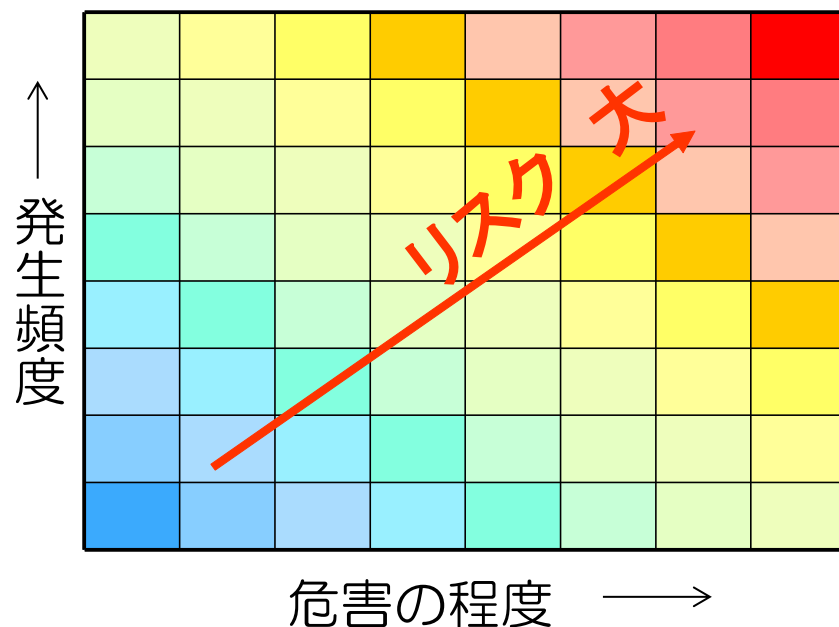
タテ軸：発生頻度
ヨコ軸：危害の程度
Matrixを使用して
リスクの大きさ

2

リスク領域、安全領域を
ビジュアルに表現

3

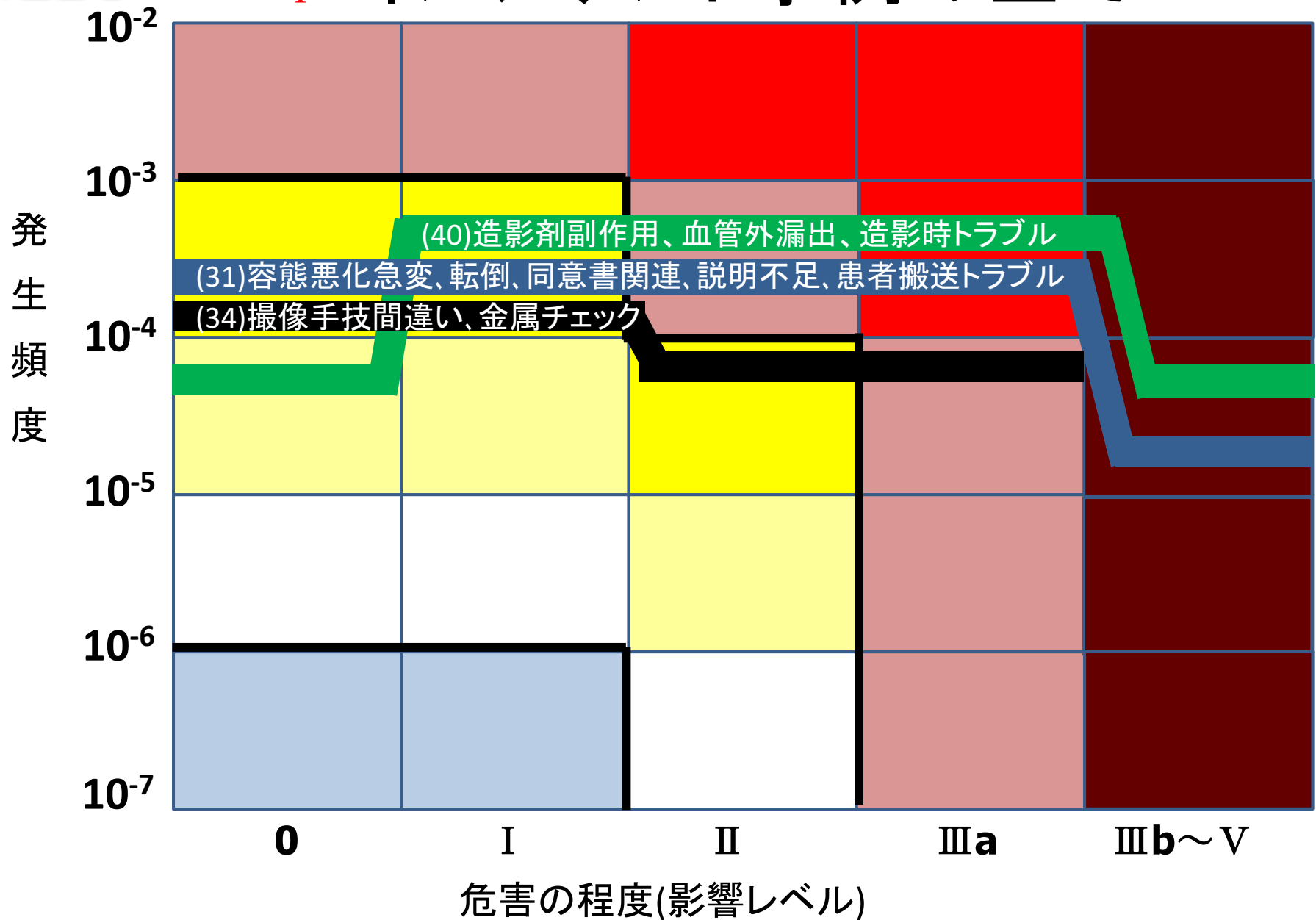
本質的な安全対策を導き出すツール



日本科学技術連盟
「R-Map実践研究会」

オリジナル手法

MR Risk Map インシデント事例の全て

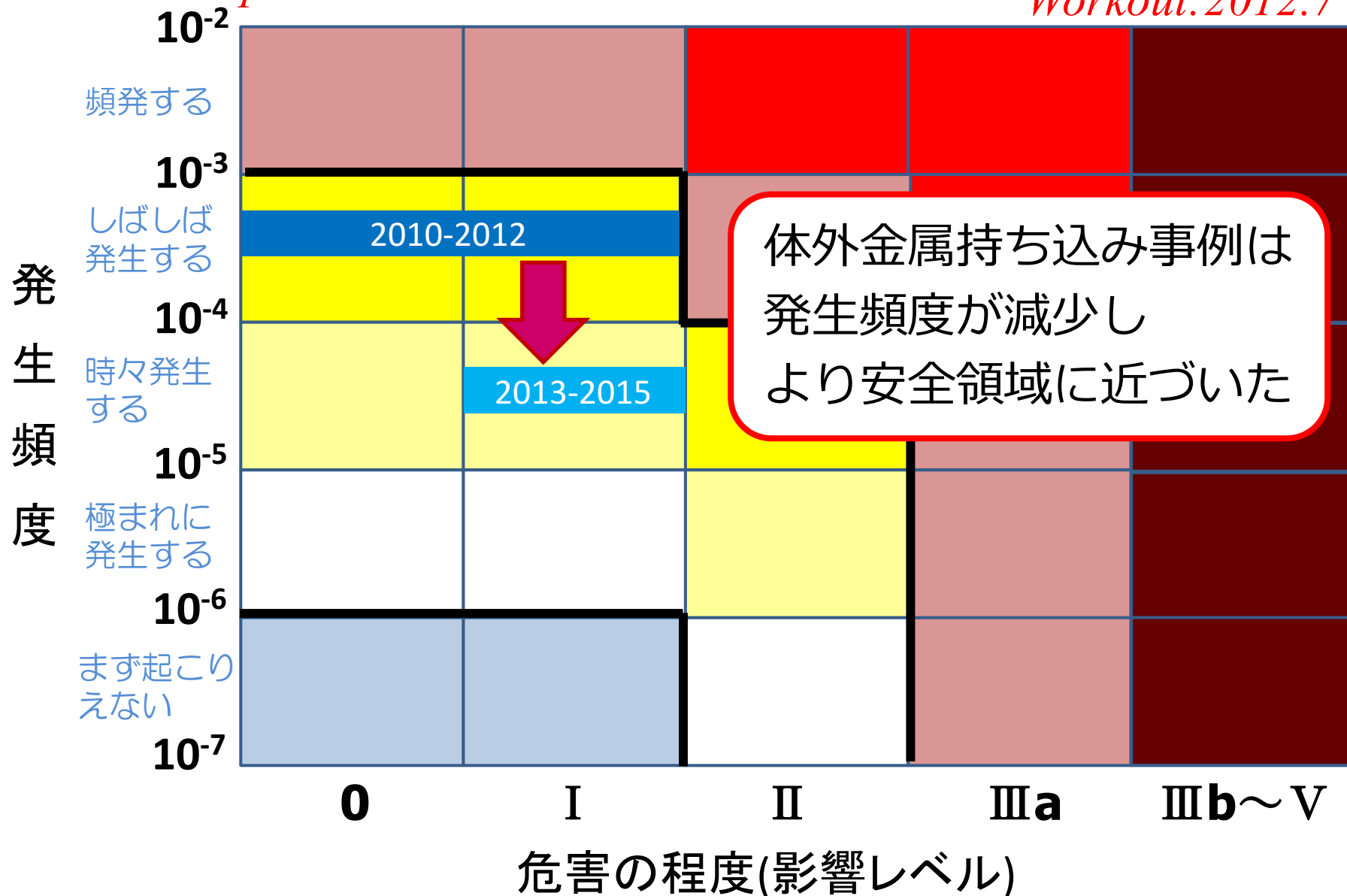


MR

Risk Map

体外金属持込み

Workout:2012.7

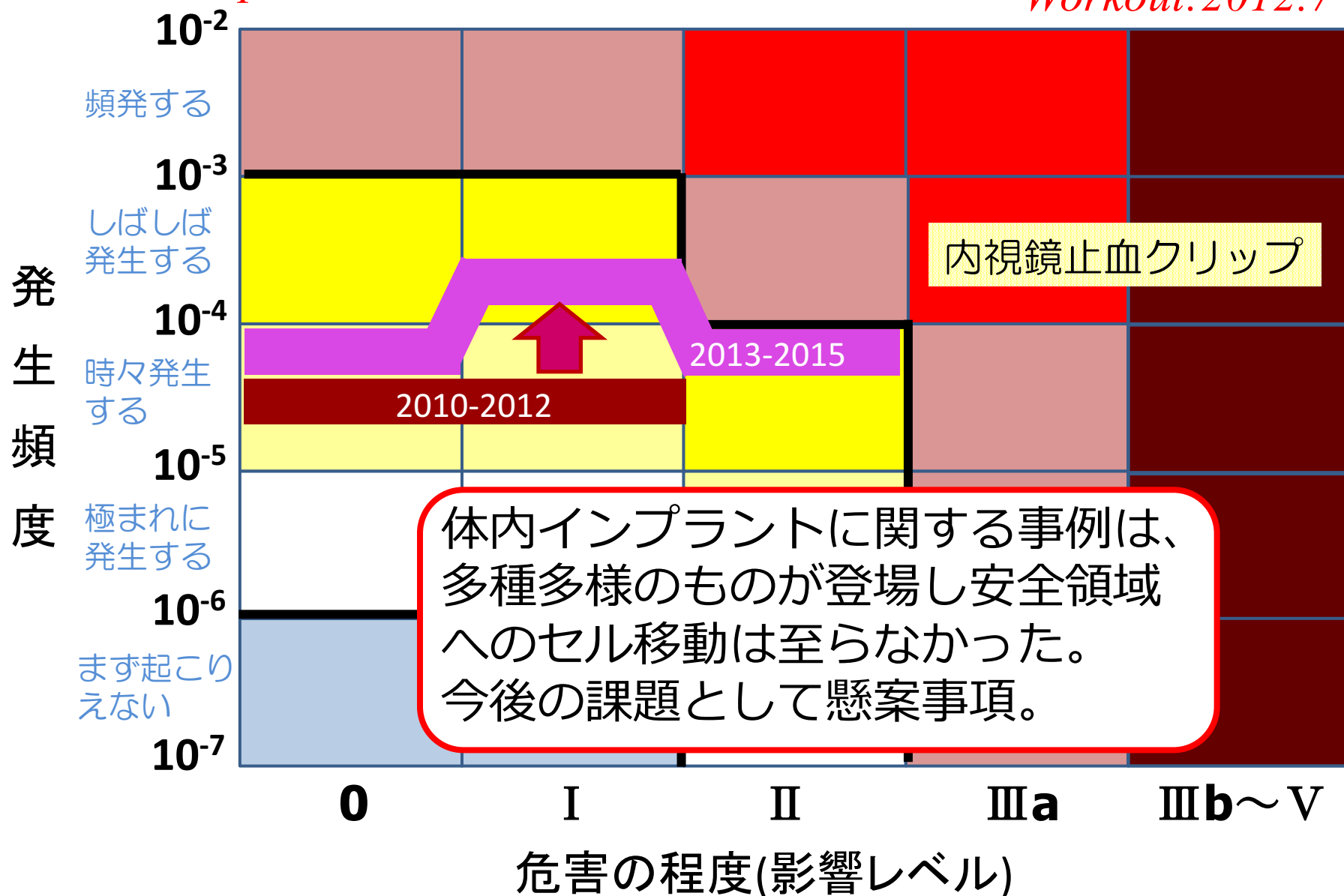


MR

Risk Map

体内インプラント・生命維持装置

Workout:2012.7



ワークアウト結果

■ 体外金属持込み

⇒RiskMap上にて、より安全領域に近づいた

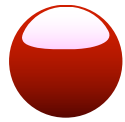
⇒改善策が奏功した

■ 体内インプラント・生命維持装置

⇒RiskMap上では、安全領域へのセル移動には
至らなかった(変化なし)

⇒この時期、多種多様の磁性体製品が登場し、
MR現場での完全対応が困難であった

⇒今後の懸案事項(課題)に設定



まとめ

□原因分析ツールであるワークアウトは、

- ✓ インシデントが発生する中で

業務改善につながった

□Risk Mapは、

- ✓ 業務改善の評価に利用可能

- ✓ リスクの洗い出しができる

ご清聴ありがとうございました